

授業者		記録者	
助言者			
<p>1 授業者自評</p> <ul style="list-style-type: none">・小数のたし算は初めてであり、これまでの学習では小数は何かという内容を学習してきた。・座席配置の2列目までは、支援の要する児童が多く、どのように集中してできる算数ができるかを考えた。自分の考えを書き出したり、広がったりするために4月からロイロノートを活用して取り組んできた。・最初の3問の中では、$0.8+0.2$に重きを置いた。考えを共有する点では、緊張からかいつも通りにならなくて、何か手立てがあれば教えて頂きたい。・授業の進め方や子供の考えを広める工夫を教えてください。・算数に対して後ろ向きに感じている児童もいたが、最近は算数が楽しいなど感じている児童が増えたことが、毎日のロイロノートの感想や家庭学習カードの日記より分かった。 <p>2 質疑応答</p> <p>Q 数直線など操作活動を行う場面を今まで行ってきたのか？</p> <p>A 1時間目から数直線やリットルます、位取り表を使用してきた。</p> <p>Q ロイロノートを開くと、すでに多くの道具があったのでスムーズに書き込めていたが、その後の共有の仕方はいつもどのようにしていたのか？</p> <p>A ロイロノートの資料箱に今までの道具を入れていて、やりやすいものを自分で選んで考えられるように指導をしていた。</p> <p>共有の仕方は「近くの子に教えに行きましょう」と、普段から声掛けをしていた。隣の子に限定してしまうと、考え終わっていない児童がいるペアが話し合いができない。また、一人で考え込んでいる児童も実態としているため、大まかな指示を出していた。</p> <p>3 全体協議</p> <ul style="list-style-type: none">・共有の場面で始めの児童が固まってしまったので、座席票を用いて、号車ごとに意図的指名を把握する手段もある。・ロイロノートで共有する場面は、30人の提出箱を共有する方法もある。しかし、目移りしてしまったり、提出箱を流し見してしまったりして、焦点化できないため、画面を直接見せ合う共有の仕方をしてきた。・ロイロノートだけでなく、白い紙を渡すなど、個別最適な方法を準備する必要がある。			

4 指導・助言

- ・ 8月の指導案検討から、授業内容が変わり、しっかり練り上げられている素晴らしい授業でした。たくさんの先生方に囲まれて、いつもと違う雰囲気緊張している児童もいましたが、

① 本時の授業で心に残った点

- ・ 既習の活用をしながら、問題解決に取り組んでいた。児童の安心感があった。
- ・ 「○分だよ」といつも通りの声掛けをしていたのが良かった。
- ・ ロイロノートを中心としたICTの活用をしている。3年生の操作力も付いているのを感じた。今日の学習内容を操作活動でより深めていた。
- ・ 教師がヒントカードや道具箱を十分知り尽くして指導していることを感じた。
- ・ 視覚化することで、学習内容を深めていた。
- ・ 違う意見同士で共有している児童の姿もあり、その姿もとても良かった。
- ・ 教師の発問に答えようとする児童の気持ちが前向きに感じられた。

② これからの算数の授業で大切なこと

- ・ 問題解決型を中心とした授業が大切である。
- ・ 前時までの学習内容の課題を、見通しの場面で丹念に確認することが必要。手も足も出ない児童にとって必要不可欠であり、算数では、既習内容を使いながら解決していく授業が大切である。また、児童が主体となっていくような授業スタイルが引き続き求められている。
- ・ C群をどこまで引き上げてあげられるかを大事にしていく。
- ・ 適用問題や振り返りの時間を確実に設定すること。